

学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

総合科学部

総合科学部社会総合科学科では、専門分野の基礎的・専門的知識やスキルの修得と、広く社会から求められる汎用性の高い総合性の獲得に重きを置くという、二つの支柱からなるカリキュラムを編成している。後者の総合性については、これをテーマとする授業科目をコース横断的な「学部共通科目」と「実践学習科目」に集約し、コース専門科目との連携を深めることで、社会が求める実践的な人材の養成をめざしている。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修する。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上を目指す。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。またキャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につける。
4. 2年次には、各自の問題関心に応じて「国際教養」、「心身健康」、「地域デザイン」のいずれかのコースに所属し、「コース入門科目」により各コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修する。「コース基礎科目」は、専門領域を学ぶにあたっての基礎的知識・スキルの修得を目的とし、「コース応用科目」は個々の課題・テーマに関わる講義科目・実習科目・演習科目から構成される。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

社会総合科学科

国際教養コースは、異文化および自文化を理解し多面的な思考力を可能にする教養、広く世界に情報発信ができ、グローバル化がもたらす地域社会の諸課題に主体的に取り組むためのコミュニケーション能力、海外留学・海外研修などの社会体験、さらにはキャンパス内外での留学生との交流を通して地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる実践的なグローバル人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む姿勢を身につけるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの履修を通じて科学的思考や文理融合の視点を養う。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会人としての将来設計に必要な知見や能力を修得する。

4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野を中心として「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、グローバル化する現代社会の諸問題の解決に向けた幅広い知識の修得をめざす。また、外国語教育（ACEプログラムなど）や体験プログラム、および短期・長期の留学や国際交流体験を通じて、実践的な語学力やコミュニケーション能力、異文化対応能力を培う。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、地域・国際課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

心身健康コースでは、人間の心と身体の働きに着目して、人間科学の諸領域から QOL (Quality of Life) の向上を追求できる人材の育成を目的としている。この目的のもと、本コースでは、複雑化する社会の健康課題を解決するために、自ら考え行動する人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修する。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につける。
4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。
5. 2年次以降、専門分野の「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、心理学とスポーツ健康科学を融合させた形で、地域と連携した実習系科目も踏まえ、健康課題の解決に向けた基礎的知識の修得と実践力の養成を図る。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、健康課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

地域デザインコースでは、公共政策・地域社会・地域文化・情報デザイン・芸術デザインなどの専門知識や技能を分野横断的に履修し、地域・社会課題の解決と持続可能な社会の創生に貢献できる実践人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1年次を中心に初年次教育の柱として「教養教育科目」を履修し、大学での学びに主体的に取り組む態度を身につけるとともに、幅広い教養教育を通じて豊かな人間性と高い倫理観を修得する。また、自然科学系の科目やイノベーション科目などの科学的思考性・文理融合を重視した科目も履修する。
2. 1年次を中心に配置された「学部共通科目」により、専門的学びに必要な基礎的知識や情報処理・外国語運用力など汎用的技能を修得するとともに、論理的思考力、課題発見・解決能力の向上をめざす。
3. 1・2年次を中心に配置された「実践学習科目」により、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題への取組を通じて人間性・社会性を高めるとともに、自ら課題を発見し、解決する能力を身につける。また、キャリア教育科目を通じて、社会づくりの担い手となるための進取の態度を身につける。
4. 2年次には、「コース入門科目」により、コースの研究目的・方法や基礎的知識を学ぶ。

5. 2年次以降、専門分野を中心として「コース基礎科目」と「コース応用科目」を体系的に履修し、基礎力・実践力を養っていく。その際、公共政策・地域社会・地域文化・情報デザイン・芸術デザインのいずれかの分野を中心に学修を深め、地域・社会課題の解決に向けた基礎的知識・技能の修得と実践力の養成を図る。
6. 「コース自由選択科目」や「他コース選択科目」により、各自の関心に応じて知識・技能の幅を広げるとともに、地域・社会課題の解決にかかる総合的な視点を身につける。
7. 4年次に「卒業研究」に着手し、これまでに学んだ専門性・総合性の両方の視点を生かしながら、研究成果として結実させる。

医学部

高い責任感、倫理観、ならびに生涯学び続ける意志を持ち、国際性と研究能力を兼ね備えながら、基礎から臨床までの幅広い知識・技能を基盤として医療を実践できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、人間・文化・社会・自然に係る広範で多様な基礎的知識と幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門教育では、基礎から臨床までの幅広い専門知識と技能を修得させるとともに、問題解決能力、コミュニケーション能力、倫理観、プロフェッショナリズムなどを含めた汎用的能力や態度・志向性を高めるための教育を行う。
3. 卒業研究や研究室配属によって、研究への関心を持ち、研究倫理に基づいて研究を遂行できる能力を修得させる。
4. 臨地・臨床現場での教育によって学習意欲を向上させながら、医療人として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。
5. 職種間連携教育を通してチーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。

医学科

医学科では、基本的な臨床能力及び基礎的な医学研究能力を備え、生涯にわたり医療、教育、保健・福祉活動を通じて社会に貢献し、医学の発展に寄与することができる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、語学、自然科学や社会科学の幅広い教養及び持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 専門医学教育では、医師、医学研究者を目指す上で必要な生命科学、医学英語、基礎医学、社会医学及び臨床医学の基盤知識の教育を行う。臓器疾患別教育ではPBL チュートリアル教育による自己決定型学習方法を用いて、自己開発・自己評価の習慣と科学的根拠に基づいた問題解決能力の修得をはかる。
3. 医学研究への関心を持たせ、研究倫理に基づいた研究能力を養うために、基礎医学・臨床医学分野及び学内各研究センターでの自主的な医学研究実習を行わせる。また、希望する学生には外国での研究経験を積ませる機会を提供する。さらに希望する学生は MD-PhD コースに進学することもできる。
4. 低学年での早期臨床体験から高学年でのクリニカルクラークシップにいたるまで、各学年の学修段階に応じた診療現場での教育を行うことで、学習意欲を向上させながら、医学知識、思考能力、診療技能、コミュニケーション能力、倫理観、医療プロフェッショナリズムなどを含めた、医師として必要な基本的な知識、技能、態度の育成をはかる。また、学外医療機関での実習により、地域社会と医療との関わりについても学習させる。
5. 医療系の他学科、他学部学生との職種間連携教育を通して、他職種に対する理解を深め、チーム医療遂行に必要な能力の育成をはかる。

医科栄養学科

医科栄養学科では栄養学を基盤として食は生命の基盤であることを社会に情報発信するとともに、現場における栄養管理学を発展させ臨床栄養管理を指導できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育を通じて、広範で多様な基礎的知識と文化や自然科学等の幅広い教養を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 基礎専門科目において、生化学、生理学、基礎医学、臨床医学などを基盤に、人間栄養の基礎知識を修得させる。
3. 専門科目において、管理栄養士養成コアカリキュラムの教育内容を網羅し、医学教育を基盤とした臨床栄養学をより充実させることで、高度な専門的基礎知識を備え、医師や他の医療専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる管理栄養士を育成する。
4. 実習や演習を問題解決型授業ととらえ、実践能力を開発するとともに社会から求められる知識や知恵を修得させる。
5. 卒業研究において、実践的な技術や能力を修得させるとともに、研究の意義や楽しさを理解させ問題を解決する手法を修得させることで、指導者となる管理栄養士及び教育者・研究者をめざす人材を育成する。

保健学科

保健学科では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。
3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。

保健学科看護学専攻

看護学専攻では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、ヒューマンケアを核とした看護学の専門性と実践力を兼ね備え、将来において看護学のプロフェッショナルとなる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、超少子高齢化に対応した持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。

3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。看護学に関する知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、看護学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて看護学の専門性を深化させ、「卒業研究」により看護学の発展に寄与する自主的・創造的な学究の姿勢と生涯にわたってキャリアを形成する力、専門分野における主体性・指導性を修得させる。

保健学科放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻

放射線技術科学専攻及び検査技術科学専攻では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 「教養教育科目」及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力、国際的な広い視野を修得させる。
3. 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
4. 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技能を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
5. 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「卒業研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。

歯学部

歯学部では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備え、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むために、リサーチマインドを涵養する科目を配置する。
3. 臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するために、高度な専門知識と技能を修得させる科目を配置する。
4. チーム医療に必要な幅広い知識および社会から求められる最新の口腔領域の知識・技能を修得させるために、関連する臨床医学系科目群と新領域の専門科目を配置する。
5. 学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床実習を配置する。

歯学科

歯学科では豊かな教養と高い倫理性を基盤として、歯科保健医療に関する高い専門能力を備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育においては、専門分野を理解するために必要な基礎科学の知見を理解させるとともに、様々な体験を通じて人間力や社会性を身につけることをめざして、臨床実践に必要なコミュニケーション能力を修得させ、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせるための科目を配置する。
2. 2・3年次の歯科基礎医学系科目群においては、最新の歯科医療を理解するための基盤となる専門知識を修得させ、さらに問題の発見と解決に能動的に取り組むためのリサーチマインドを涵養する科目を配置する。
3. 3・4年次の臨床歯学系科目群においては、最新の歯科医療を実施するための高度な専門知識と技能を修得させる科目を配置する。
4. 4・5年次においては、これまでに学んだ知識・技能・態度・教養を統合するために、臨床予備実習及び診療参加型臨床実習を配置する。
5. 6年次においては、地域医療を経験させる目的で学外臨床実習を配置し、また社会歯科学系科目や境界領域との連携科目を学ぶ専門科目を配置する。

口腔保健学科

口腔保健学科では、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ、健康長寿の推進に貢献できる人材の育成をめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1・2年次の教養教育や専門教育科目での様々な体験学習を通じて人間力や社会性を身につけさせることをめざし、臨床・福祉活動に必要なコミュニケーション能力を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 問題解決型授業や客観的臨床能力試験などを組み込んだ授業を通じて口腔保健に関する知識や技能を習得させ、臨床・臨地実習により態度教育を含めた歯科衛生士専門教育の習熟を図る。
3. 選択科目の履修により社会福祉士国家試験受験資格を得ることができるよう配慮した科目編成を行う。また、問題解決型授業や演習などを組み込んだ授業を通じて福祉に関する知識や技能を習得させ、社会福祉実習に繋がる福祉教育を行う。
4. 「卒業研究」で専門性と総合性を統合させる。

薬学部

薬学部では薬剤師資格を基盤として、地域、社会から求められる Pharmacist-Scientist（指導的役割を担う高い能力を備えた薬剤師や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者）を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 薬学部の教育理念である「インタラクティブYAKUGAKUJIN（薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材）の育成」に則り、医療現場での医薬品適正使用のみならず、創薬や保健衛生領域など広範囲な職域において指導的な立場で活躍できる薬剤師を先導的な薬剤師と位置付け、入学後のコース選択により先導的薬学研究者（医療を理解する薬学研究者）、先導的専門薬剤師（高度な基礎力と研究マインドを持った薬剤師）を養成する。
2. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、理論的に討議・説明できる表現力と語学力、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。
3. 専門教育では、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた講義、実習、演習および卒業

論文研究を通じて、医薬品の性質や使用に関する知識と技能、医薬品の創製に関する高度な専門的知識と技能を修得させるとともに、課題発展能力、問題解決能力、高度化する医療や創薬の進歩に対応できる能力を身につけさせる。

さらに、学部と大学院の一貫教育・研究を行うことを通じて、指導的役割を担う薬剤師としての高い能力や、専門的薬学知識と高い研究能力を身につけた研究者・教育者を養成する。

4. 実務実習事前学習を経て薬学共用試験に合格した学生に、医療薬学・病院実習および薬局実習を履修させる。

薬学科（先導的薬学研究者育成コース）

先導的薬学研究者育成コース [2年次後半からの早期の研究室配属を行い、3年次前期からは先導的薬学研究者育成コース、先導的専門薬剤師育成コース（研究型高度医療薬剤師、研究型地域医療薬剤師）に分かれる]

先導的薬学研究者育成コースでは、薬剤師資格を基盤として、創薬・製薬に貢献できる薬学研究者・教育者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、理論的に討議・説明できる表現力と語学力、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を養わせる。
2. 専門教育では、薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた講義、実習、演習を通じて医療現場の理解を進める。製薬企業との連携、および早期研究室配属と薬学共用試験および実務実習の時期を高学年に移すことで実現する切れ目ない卒業論文研究期間（2.5年）を確保することで、創薬に関する高度な専門的知識と技能を修得させる。
3. 薬学領域での研究を十分に理解した上で実務実習事前学習や薬学共用試験に合格した学生に対して病院実習および薬局実習を実施することで、研究という視点からクリニカルクエストをリサーチクエストへ変換するという、先導的薬学研究者に必要とされるリバーストランスレーショナルリサーチの考え方を涵養する。
4. 卒業論文研究では課題発見能力、問題解決能力、研究マインドと医療ニーズに対応できる能力を修得させる。さらに、研究成果の発表を通じて、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を向上させる。

薬学科（先導的専門薬剤師育成コース）

先導的専門薬剤師育成コース [2年次後半からの早期の研究室配属を行い、3年次前期からは先導的薬学研究者育成コース、先導的専門薬剤師育成コース（研究型高度医療薬剤師、研究型地域医療薬剤師）に分かれる]

先導的専門薬剤師コースでは、薬剤師資格を基盤として、研究マインドを持った薬剤師（研究型高度医療薬剤師）、地域に根ざした薬剤師（研究型地域医療薬剤師）を育成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 教養教育では、幅広い教養および基礎科学の知識や柔軟な科学的思考、理論的に討議・説明できる表現力と語学力、そして生涯にわたり学び続ける姿勢を身につけさせるとともに、豊かな人間性と高い倫理観およびコミュニケーション能力を涵養する。
2. 専門教育では、研究型高度医療薬剤師、研究型地域医療薬剤師ともに薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた講義、実習、演習を通じて医療現場の理解を進めるとともに、薬学応用専門教育として高度医療薬剤師、地域医療薬剤師を目指す上で必要な生命薬学、薬学英语、社会薬学、及び臨床薬学の基礎知識の教育を行う。
研究型高度医療薬剤師ではさらに、超スマート社会への対応として臨床医療情報解析の教育を行うとともに、医療系学部との合同演習を通じ他職種に対する理解を深め、チーム医療遂行に必要な能力を育成する。
研究型地域医療薬剤師ではさらに、地域医療や災害時医療、そして在宅薬物療法に関わる講義・実習・演習を行うことで地域社会と薬学の関わりについて学習させるとともに、医療系

学部との合同演習を通じ他職種に対する理解を深め、チーム医療遂行に必要な能力を育成する。

3. 医療人としての職業倫理や責任感を身につけさせるために、共用試験に合格した学生、医療薬学・病院実習及び薬局実習を実施するとともに、卒業論文研究を通じ、課題発展能力、問題解決能力、研究マインドと医療ニーズに対応できる能力を修得させる。さらに研究成果の発表を通じて、コミュニケーション・プレゼンテーション能力を向上させる。

理工学部

理工学部では、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざします。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成しています。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

理工学科

数理学科コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 数学、情報科学の諸問題を自ら解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

自然科学コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 物理学、化学、地球科学、生物科学の諸問題を自ら解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟

に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

社会基盤デザインコースでは、数学・物理・地球科学の理学と建設・建築・都市・環境・防災に関する幅広い理論と技術に関する知識を有し、問題解決能力、計画・企画力および実行力と、社会に対する強い責任感・倫理観と高度な説明能力を具備した、グローバルに活躍できる建設技術者を育成するために、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養、高い倫理観を身につけ、進取の気風を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、建設工学と理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、建設工学に関する幅広い視野と応用力、問題解決力、論理的表現力及び情報発信能力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、チームの一員あるいはリーダーとして協調的に課題を解決できる能力、デザイン能力、マネジメント能力、及び人間社会が地球環境に及ぼす影響を評価できる能力を養う教育を行う。

機械科学コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、機械分野を中心としたイノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、力学を中心とした専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

応用化学システムコースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 化学者あるいは化学技術者として自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる化学者あるいは化学技術者を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

電気電子システムコースでは、豊かな教養を持ち、高い倫理観と強い責任感を有するとともに、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人間性と幅広い教養を身につけ主体的に学習にする態度を養う教育を行う。
2. 課題や事象を論理的・科学的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、電気電子工学に関する基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら課題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、電気電子工学に関する幅広い視野とその応用力、問題解決力及び表現力を養う教育を行う。
4. 電気電子工学に関連した知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力、創造的思考力、デザイン能力及びプロジェクト型研究遂行能力を養う教育を行う。

知能情報コースでは、情報工学、知能工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理学的素養の上に情報工学・知能工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、情報工学・知能工学の専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、情報工学・知能工学の諸問題に、科学技術を広く俯瞰して柔軟に対応できる自律的応用力と創造力、さらにチーム内での自分の役割を理解し協調的に課題を解決できる能力を養う教育を行う。

光システムコースでは、光科学・光工学に関する幅広い知識と技術を有し、問題解決力や自律的応用力を活かして創造性を発揮できる人材の育成をめざす。また、地域社会や国際社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、光科学・光工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、光科学・光工学の専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、光科学・光工学の最先端研究に基づく教育を行い、科学技術を広く俯瞰して光科学・光工学の諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う。さらにチーム内での自分の役割を理解し協調的に課題を解決できる能力を養う教育を行う。

医光/医工融合プログラムでは、光学、工学、医学、情報科学に関する幅広い知識と技術を有し、自ら課題を設定し、幅広分野で課題解決ができ、新しい価値を創り出せる人材の育成をめざす。また、地域社会や国際社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる人材、必要に応じて新しい産業を生み出せる起業家精神を有する人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と高い倫理観を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、光学・工学・医学の学際的基礎知識を十分に理解させる教育を行う。

3. 自ら問題を解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、研究を通じた実践的教育により問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、光学・工学・医学の最先端研究に基づく教育を行い、科学技術や医療を広く俯瞰して諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う。

生物資源産業学部

生物資源産業学部では、教育目標を達成するため、以下の特色あるカリキュラムを編成している。

1. 生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するために、必要な専門教育を重視し、生物資源による新たな産業の創出に必要な基礎知識を修得する。
2. 生物資源の生産、加工・応用、製品化を総合的に理解するために必要な基礎教育を重視し、全学年を通じて行われる学科共通科目と実習・演習科目を必修化する。
3. 生物資源の生産から加工、機能性製品・食品の開発、医薬品・エネルギーの開発に関する先端技術、製品開発・販売に関する最新技術を学修することを重視し、バイオサイエンス、フードサイエンス、アグリサイエンスに関する専門教育を行う。
4. 生物資源の持続的活用や、食料生産、食品製造、創薬、機能性製品、エネルギー生産に関して安全性の担保を重視し、農学・工学・栄養学・薬学および医学分野を融合させ、安全性や環境に配慮した先端技術による生物資源の生産・応用に関する教育を行う。
5. 新産業創出のマインドを身につける科目、専門職としての倫理教育、産業体験や経済・商品企画開発に関する教育を学科共通科目として組み込み、現場での実践力を養う教育を行う。
6. 生物資源の生産管理や分析には、情報処理やデータ解析の知識が不可欠であるため、教養教育科目で情報科学を、学科共通科目で情報処理能力を修得する科目を組み込む。
7. 国際的発信力を身につけるため、学部における専門英語を必修化し、英語運用能力と国際感覚を高めるための実践的教育を行う。

生物資源産業学科

応用生命コースでは、生物資源の医薬からエネルギーに至るバイオテクノロジーの開発応用に関する高い研究能力や専門知識を身につけ、新たな産業創出に貢献する技術者、起業家を育成することを目指し、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1・2年次を中心に、教養教育科目や学科共通科目を配置して、生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。また、持続可能な社会作りの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
2. 2年次以降にはコース専門科目、実習、演習を配置し、生物資源やバイオテクノロジーに関する幅広い知識を修得させることにより、生物資源を利用したバイオ医薬品、エネルギー、有用資源の開発応用、産業化に関する専門知識と技能を身につけさせる。さらに4年次には卒業研究を通じて、論理的思考能力や情報発信能力を修得させる。
3. 人間と自然が共存する豊かな社会の中で、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成するため、ヘルスサイエンスに加えて、フードサイエンス、アグリサイエンスに関する専門科目および、経済・経営関連科目などを通じて専門基礎と産業の創出に必要なビジネスマインドを修得させる。

食料科学コースでは、安心安全な食品供給を可能にするための生物資源の加工、食品中の機能成分の役割、有害物質の作用等に関する高い研究能力や専門知識を身につけ、食品分野で新たな産業創出に貢献する技術者、起業家を育成することを目指し、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1・2年次を中心に、教養教育科目や学科共通科目を配置して、生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観を修得させる。
2. 2年次以降にはコース専門科目、実習・演習を配置し、フードサイエンス分野の基礎知識や実験技術を習得させる。卒業研究を通じて、論理的思考能力や情報発信能力を養う。
3. フードサイエンス分野だけでなく、ヘルスサイエンス、アグリサイエンスに関する専門科目や経済・経営関連科目の履修を通じて、生物資源を活用した新たな産業の創出に必要なビジネスマインドを身に付けさせる。

生物生産システムコースでは、豊かな自然環境を保全しながら、一次製品の質の向上や生産量を増加させる革新的なアグリサイエンスに関する高い研究能力や専門知識を身につけ、一次産業の発展、産業創出に貢献する技術者、起業家、地域リーダーを育成することを目指し、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 1・2年次を中心に、教養教育科目や学科共通科目を配置して、生物資源に関する幅広い視野と豊かな人間性、バイオテクノロジーについての高い倫理観、イノベーションや商品を生み出す進取の気風を身につけさせる。
2. 2年次以降にはコース専門科目、実習・演習を配置し、一次産業の技術革新、新たな生物資源の利用、産業化に関する専門知識と技能とビジネスマインドを修得させる。さらに4年次には卒業研究を通じて、論理的思考能力や情報発信能力を身につけさせる。
3. アグリサイエンス分野に加えて、ヘルスサイエンス分野やフードサイエンス分野に関する専門科目を通じて、産業の創出に必要な専門知識と技能を修得させる。